[平成22年度普及に移す技術]

[技術名] 大粒で多収な晩生の大豆新奨励品種「里のほほえみ」

[要約] 「里のほほえみ」は大粒で収量性が高く、蛋白含有率はエンレイ並で豆腐加工性も良好である。

[キーワード] 大豆、奨励品種、「里のほほえみ」

[担当] 農業試験場 栽培部 作物研究グループ

[連絡先] 電話 0776-54-5100 電子メール toyohiko_oida@fklab.fukui.fukui.jp

.....

「背景・ねらい」

大豆の基幹品種「エンレイ」は導入当初に比べて株が小さく、収量が低迷し大粒率も上がりに くい場面が増えてきた。補完品種の「あやこがね」は豆腐加工に使いづらいとして作付けが抑制 されている。そこで、大粒率が高く、豆腐加工に適する良質多収品種を選定し、大豆の生産振興 に資する。

「技術の内容・特徴]

- 1 「エンレイ」より開花期は 1 日遅く、成熟期は $4\sim7$ 日ほど遅い。裂莢しにくく、気温も下がるので刈取時期としては 10 日くらい遅いことになる (表 1)。
- 2 生育旺盛で、主茎長は「エンレイ」より 10cm ほど長い。最下着莢位置も高い(図1)ので コンバイン収穫への適性も高い。花が白いので開花中なら「エンレイ」とは容易に見分けられ る。
- 3 大粒で、収量性は安定している。 莢数、粒数はやや少ない。
- 4 粒の外観品質は「あやこがね」並みに良い。ただし、裂皮が多かった事例があった。一株当たりの粒数が多かったことと関連している(図2)ので、麦あと栽培では、栽植密度 13 株/㎡ 程度を確保するよう丁寧に播種する。
- 5 子実の蛋白含有率は「エンレイ」並に高く、豆腐加工性も良好である。

[技術の活用面・留意点]

- 1 生育旺盛なことから、ウコンノメイガの加害が集中しやすいので、適切に防除する。また、 コンバインが詰まりやすい際は、刈り取り速度を落とす。
- 2 加工に当たっては従来の材料との違いを把握してから利用する。
- 3 実需者のニーズに対応した、計画的な作付けおよび販売を行う。

[普及計画]

普及目標: 平成 25 年 300ha

普及対象:作期分散が望ましい大規模経営体

普及に向けた対応:作付地について関係機関と協議

[具体的データ]

表1 主な品種特性

区分	品種·系統	開花期	成熟期	倒	<u>育障害</u> 蔓化	- 主茎 長	主茎 節数	分枝 数	最下 着莢	子実重	同左 標準比	百粒重	<u>障</u> 裂 皮	<u>害粒</u> し わ	外観品質	蛋白質※
		月. 日	月. 日	(0	~ 5)	cm	節	本	cm	kg/a	%	٤	(0	~5)	(1~7)	%
農試5月播 (5/24)	里のほほえみ エンレイ	7.19 7.18	10.14 10.07	1	1 1	76 71	14.7 14.7	5.1 4.8	19.5 12.2	36.3 34.9	105 100	35.9 31.4	1	1	3 4	44.4 44.0
'05~'09	あやこがね	7.18	10.07	0	0 0	67	14.5	4.7	12.2	38.8	112	29.8	1	1	3	42.2
農試麦あと (6/10) '07~' 09	里のほほえみ エンレイ あやこがね	7.26 7.25 7.26	10.18 10.14 10.14	0 0 0	0 1 0 1 0 0	68 58 60	14.4 13.5 13.7	4.9 4.4 4.1	18.6 13.9 13.0	32.0 28.8 32.3	115 100 115	38.7 32.1 32.1	1 1 1	1 2 1	4 5 3	44.7 44.5 42.3
現地 '06~'09	里のほほえみ エンレイ	7.26 7.23	10.21 10.11	0	0 — 0 —	61 50	13.2 12.4	4.2 3.9	_ _ _	35.2 29.6	119 100	34.7 28.7	1 1	1	3 4	

現地3ヶ所 すべて麦あと 播種期は6/4~6/16平均6/9

※: 長野中信農試において近赤分析



里のほほえみ

エンレイ

図1 株と粒 (エンレイ対比 '09)

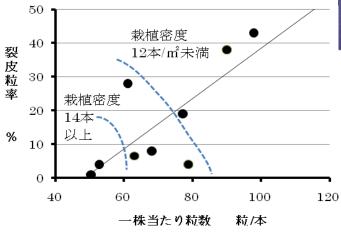


図2 裂皮粒率と一株粒数の関係(07,08年)

[その他]

研究課題名:大豆奨励品種決定調査

研究期間: 2005~2009 年度

研究担当者: 笈田豊彦、井上健一、田中豊実、佐藤勉



里のほほえみ

エンレイ